

2025年2月1日(土) 勉強会

皆様、こんにちは。2月1日、土曜日の勉強会を始めます。本日は、最初の画面に出ていますけれども、ちょっと大げさなタイトルをつけました。『世界を救う女性性』というタイトルです。

「女性性と男性性」という言葉があります。これは白光でも、2010年代の半ば頃ですかね、一時期使われていました。これは、宇宙を構成する素粒子の最小単位といえば、プラスの宇宙子とマイナスの宇宙子が持つ一面的な働きを指した表現です。陰と陽、プラスの電極とマイナスの電極、太陽と月、大地と空などのように、二極性の働きの違いを表わした言葉だといえます。

また、どちらが欠けても、どちらが大きすぎても全体が調和しない、完成に至らない、何も生み出されないといた意味では、『宇宙を創造してゆくうえで、なくてはならない要素』に使う言葉だともいえます。

そして何よりも、男性性・女性性という言い方は、宇宙創造意識から同じ力を分け与えられた人間たちの性質にスポットをあてて表現する際の言葉だともいえます。

その意味で、宇宙にあまねく存在するすべての世界、すべての天地は、女性性と男性性によって生み出され、新陳代謝をしながら維持されているといえます。すべての物質、すべての精神、ありてあるすべての要素が、女性性と男性性を持っているわけです。

そのように大切な女性性と男性性をバランスよく配合した肉体と精神になっているかどうかという面から観ますと、私たち地球人の発達の度合は、お世辞にも深まっているとはいえない。しかし、21世紀に入って以降、その本質的な在り方に意識を向ける人たちが現われ始めているという意味では、一昔前よりも一歩か二歩は進んだ状態にあるとはいえる。

これまでの土曜日夜のセッションや、以前の勉強会などで、何度かこの女性性と男性性について触れてきました。しかし、目に見える形あるものの話ではありませんから、「よくわからない」というのが、半分以上の方の反応だと思います。そこではじめに、女性性と男性性の全体像について、おさらいをするところから始めてまいります。

はじめに確認しておくべきことは、この世の女性性と男性性は、単純に二極性の状態にあるというわけではなく、それぞれ光の側面と影の側面を持っているということです。これは、宇宙子や電気などのプラス・マイナスとは異なる概念です。わかりやすい言葉でいえば、よい面と悪い面、長所と短所と同じ意味です。

「なんでいい面だけじゃないの?」と思ってしまうところですが、その疑問は、この世がどういう世界であるかを知ることで解決します。この世はいまだ不完全な世界です。宇宙神の理念が100%展開できていない世界だともいえますし、発展途上の人類が住む星だともいえます。

そのような世界であるからこそ、表と裏、善と悪のように、女性性と男性性にも、それぞれに光と影の面が残っているといえるわけです。

この女性性と男性性を次元上昇させる鍵は、夢遊病者のような世界人ばかりの世界で、誰よりも早く目が覚めた、意識の面で早起きした人たちが握っています。その人たちは、客観的に見ますと、女性が多く、男性が少ないんですね。

これは、どうしてだと思いますか?なぜ、女性のほうが男性よりも早く、生命の真実、宇宙の真理、真・善・美、愛と調和の大切さなど、本当に大切な真理に目覚めているのでしょうか?

ここには、私も含め男性もいますから、ここにおられる男性の名誉のために言いますと、ここにいる男の人たち

は、女性の人生も男性の人生も、酸いも甘いもすべてを経験し尽くしてきた魂で、今回は守護神様と相談したうえで、男性の体をもって地球を完成させる役割を担って生まれてきた人たちですので、一般的な男性たちよりは女性性が目覚めている方々だといえます。

先ほどの問い合わせの答えに戻ります。なぜ、女性のほうがたくさん早く目覚めているのか。これは、女性と男性の体の構造の違いに秘密があります。子どもが生まれるためには、何が行なわれているか。それを、肉体的な観点と靈的な観点から、俯瞰するように眺めてみてください。

男の人たちが果たす役割は少ないんです。神さまが星の世界を生み出すように、新しいいのちを生み出すのは女性です。男性はちょっとお手伝いするだけです。女性は、女性の心と体を持って生まれたときから、神様の働きが備わった状態で生まれているわけです。

最近の若い男の人たちは、だいぶ奥さんに寄り添うようになってきて、家事でも育児でもお手伝いする、一緒に分担する男の人たちが増えていますけれど、私の年代、もしくは私より上の年代、いわゆる 60 歳以上の男の人たちっていうのは、子供が生まれたら子供の面倒を見るのは、女性に、奥さんにおまかせして、あんまりタッチしないっていう男の方が多かったと思います。

それは、「おっぱいがないから」とか言い訳はあるんでしょうけれども、「育児っていうのは、女がやるものだ」っていう偏った常識というか、身勝手な考え方があったからでもあると思います。今の若い男の人たちは違いますね。自分の仕事が休みのときには、奥さんを休ませて、子供の面倒を見ている若い男の人たちがいっぱいいます。

今ここにおられるような方々で、子育てを経験された方は、赤ちゃんと一緒に寝て、赤ちゃんが夜中に起きてぐずるたびに、おっぱいを飲ませたとか、おしめを替えたっていう経験をされてきた方々だと思います。自分が寝たくても寝れないっていう経験をしていると思います。

男の私からしたら、それはすごいことだと思うんですけど、うちの裕子さんの体験談を聞いてもそうですが、お母様方の体験談を聞きますと、サラッとそれをやってらっしゃるんですね。

それは、持って生まれた母性というものが働いて、肉体の頭で「どうしよう、こうしよう」って思わなくとも、体が動く、手が動くっていう状態です。この女性性の働き（子を生むといった物理的な機能を除いた意識的な面）が、これから男の人の中にも目覚めなければいけない。

そのためには、今、女性の体を持って生まれてきた方々が、もっともっと、もっともっと輝いて生きることが大切なことだと思っております。

本日はですね、今まで私、たぶん一回も話したことのない話をします。「昔、私はろくでなしでした」「ろくでもない人間でした」って話を時々してきましたが、それがどうしてコロッと変わってしまったのかというところで、「私はこういうことをしました」「どういうことをしてきました」という話をしてきましたけれども、もっとその奥の、根底の話をします。

私が変わったきっかけは、うちの裕子さんのお蔭なんです。彼女と出会って以降……、その後なんです、私の人間性が変わったのは……。それ以前は、もっと心が荒んでいたんです。尖っていたんですね。角だらけの人間だったんです。

その角を取ってくださったのが、うちの人なんですね。もちろん、口に出して何かを言ってくれたとか、そういうこともありますけれど、そういう特に何をしたとかじゃなくて、こういうろくでもない男の人と一緒にいてくれただけで、ろくでもない男の人がちょっとはマシな人間に変わったっていう状態なんだと思います。

彼女の何が私を変えたか。それが、女性性なんです。彼女が持っている**女性性の陽の働き**によって、私の角（**男性性の陰の働き**）が取れて丸くなっていったっていうのが、一番根本的に私が変わった理由です。

男性の方で、奥さんの存在によって変わったなって思う方があるかもしれないんですけど、女性の皆さんもそういう意味で、ご自身の周りを振り返って見ていただければ、あると思うんです。皆さん、気づかないで周りを変える力を持っていらっしゃるんです。

この女性性が旺盛に発揮されれば、世の中が大きく変わります。

さっき光と影の側面と言いましたけれども、女性性のプラスの面、陰陽の陽の面、いわゆる無私の愛、無条件の愛、条件を付けて「こうじゃなきゃ愛さないよ」っていうのではなく、もう体が自然と動く、自然と人のために働く、という状態ですね。

それによって、「自分も周りの人を助けてきたな」っていうふうに、女性の方々は思われると思います。男性の方々は、「女性によって助けられてきたな」って思うと思います。

いろんな職場をイメージしていただくとわかりやすいと思うんです。男女両方いる職場と女性ばかりの職場、男性ばかりの職場ってあると思うんですけども、男性ばかりの職場って、結構目も当てられないところが多いんですね。ギスギスしてたり、ガサツだったりするんです。

それは、思いやりを持ったやさしい男の人が少ないからです。「俺が、俺が」「我が、我が」っていう人たちの集まりだから、ぶつかり合ったり、擦れ合ったりするのです。そこに女性が存在することで、その男の人たちの「我が、我が」という想いの癖が中和されてゆく。

もちろん、そうは言っても、男女両方いれば、すべての職場が調和するのかっていったらそんなことはなく、いろいろな人間関係の悩みっていうのはありますけれども、男の人ばかり、女の人ばかりの偏った配合の職場よりは、男女が揃っている方が、和らいた雰囲気になると思います。

また、女性ばかりの職場で和らいた雰囲気の職場もあるでしょうけれども、女性性の影の側面が前面に出てくると、妬みとか悪口とか、そういうものが旺盛に働いているところもあるでしょう。

そのような意味で、この女性性が持っている陽の側面、無条件の愛、生み成し育む力っていうのが、もっともっとこれから、世の中の前面に強く出てゆくようにならいいなと思っております。

皆さんもご存知かもしれないけれども、昔、日本に縄文時代という時代がありました。弥生時代の前ですね。これは今でもはっきりとわかっていないんですけど、1万3000年から1万6000年続いたと言われています。

その遺跡を発掘して、調査をするんですけど、縄文時代の遺跡には、人間たちが争った痕跡がないと言われています。他の世界中のいろんな遺跡は、例えば叩かれて死んだであろう頭蓋骨があつたり、刺されて死んだであろう骨があつたりするんです。

あと武器・武具ですね。武器になるものが縄文の遺跡からは出てこないんです。これが何を意味しているかといいますと、見てきたわけではないので想像でしかありませんが、女性が尊重されていた時代だったと思うんです。女性が力を持ってらした。女性中心の社会だったんじゃないかしらと思っております。

白光の動きを見ていても、面白いなと思うんです。初め五井先生が現われました。2代目は昌美先生という女性でした。3代目は、由佳先生・真妃先生・里香先生という三人の女性です。女性で末広がりになっていっています。白光真宏会自体も、女性の人口が多いと思います。

そういう白光の人たちが、どこかの大統領選挙に出るとか、日本の首相になるとか、そういうことではなく、日常生活の中で女性性を發揮して生きてゆかれたら、ただそれだけで周りの男の人たちが変わってゆきます。

もっとご自分の女性性に自信を持っていただいて、明るく無邪気に輝いて生きてくださるだけで、特に「何かしてやろう」なんて思わなくても、ただそこにいるだけで、周りの人たちを明るくします。男の人たちの荒んだ心を包んで和らげます。そういう力を皆様は持ってらっしゃいます。

「いや、私は結婚していないし」とか、「いや、私は子供を産まなかったから」とか思う方がいるかも知れませんが、そういうことは関係ありません。女性として生まれたという、ただそれだけで、地球全体を、人間同士を、もっとお互いに思いやれる世界に変えてゆく鍵を握っているということです。それが、女性性の働きです。

今の社会、今の世の中、今の世界……、プーチン、トランプ、ネタニヤフ、ゼレンスキー、中国の習近平、北朝鮮の若い大将、日本の首相など、（イタリアとか一部に女性のトップがいますけれども）男の人が多いですね。

そういう人たちは喧嘩を止めないんです。上げた拳を振り下ろさないんです。男の人たちは子供なんです。子供の喧嘩のようなもんです。「自分も悪かったな」と思ったら、「ごめんね」って言えばいいのに言えないんです。できないんです。

それをできないからロシアとウクライナでも3年ですか、もうずっと続いている。イスラエルでもパレスチナだけじゃなくて、地図でいう上の国のレバノンの方にも攻撃をしている。これは男性性のマイナスの側面、負の側面が現われている状態なんですね。

皆さん、「テレビなんかあまり見ないよ」って方も多いかも知れませんけれども、テレビを最近見ていますと、フジテレビの問題がありますね。フジテレビの権力を持った男性社員が、女性アナウンサーを芸能人のところに差し出すような働きをして、結果として女性アナウンサーが有名な芸能人の人から性暴力を受けて、心と体に大きな傷を負ったという話ですね。

フジテレビは、「自分のところの社員は関与していない」とかなんとか言っていますけれども、1月27日に、フジテレビが記者会見をやりました。午後4時から始まって、終わったのは午前2時半ごろでした。記者会見が終わるまでに、10時間半ぐらいやりました。

フジテレビや親会社の会長とか社長とか、なんか偉い人たちが5人ぐらい登壇していて、いろいろな質問を記者から受けて答えていましたけれど、もう自分たちを守る話ばかりでしたね。女性を守るような話はほとんどなかった。組織を守る話ばかりでした。

私はフジテレビの記者会見、元SMAPの中居くんのあの問題は、男性中心社会の終焉を示す象徴となる事件だったと思っております。男たちに任せていると、ああいうことになるんです。だからといって、今からここにいる女性の皆さんのが政治の中枢に入るとか、会社のトップになるとか、そういう話ではなく、私たちが日常生活を、普通に今まで通りに生きながら、命が本来持てる神聖を發揮してゆく。

この神聖っていうものは、男性性と女性性に分けられると思います。男性性が悪いばかりじゃありません。男性性にも良い面と悪い面があり、女性性にも良い面と悪い面があります。

今までの社会っていうのは、男性性の影の面、マイナスの面が表に現われて社会を動かしてきた世界だったんです。これを女性性の良い面がもっと出てくることによって中和させることができます。

あんまり男たちは駄目だ駄目だって言ってもあれなんで、男性側の話をしますと、男性にも女性性があって、それはどうやったら開発されるかというと、守護霊・守護神さまと一つになることで、女性性が表面化してきま

す。

例えば、日々の祈りの中で、「守護霊さま・守護神さま、どうか、愛深い私でありますように。私の心が愛で満たされますように。愛一元の私にならしめたまえ。世界人類が平和でありますように。守護霊さま・守護神さま、ありがとうございます。私どもの天命を完うせしめたまえ」って祈り続けていると、本当に人格が変わってきます。

私は、若いときからやっていたんですけど、なかなか変わらなかったんです。何十年も世界平和の祈りをしながら人の悪口を言う、不平・不満・不足を語るっていう、二重人格みたいな状態で何十年も生きていて、それが本気で「変わりたい」って思ったのは、うちの裕子さんと出会ってからなんですね。彼女が持っている目に見えない女性性の力が私の背中を押してくれたんだと思っております。

はい。今40分ぐらいになりましたかね。では、神聖復活の印を一回組んでから休憩にしたいと思います。お祈りの言葉は、「私たちの女性性と男性性がバランスよく現われますように。私たちの女性性と男性性がバランスよく現われますように。」です。それでは始めます。

<神聖復活の印 × 一回>

はい、ありがとうございます。それでは13時41分になりますかね。51分から再開したいと思います。画面を最初の状態にしておきますので、もし気になる方はご自分のビデオを切って、お姿は現われないと思いますけど、それで休憩してください。51分からスタートします。

<10分間の休憩>

はい。それでは51分になりましたので、再開いたします。ここからは、宇宙人と宇宙学のお話をいたします。ここに『人類の未来』という本があります。昭和40年代の後半に出た本だと思います。その中に、「宇宙人と地球人」というページがあります。56ページですね。

いろいろ宇宙人のことが書いてあるんですけども、五井先生が『消えてゆく姿で世界平和の祈り』『人間と真実の生き方』、そういう宗教の教えだけで始めたところ、昭和30年代の途中から宇宙人の話をされるようになりました。

そうすると、五井先生のところに来ている方々の中から「先生、立派な宗教の話だけで十分なのに、どうしてそんな宇宙人の話なんかするんですか」って言ってくる方々がいらしたんだそうです。ここにそのことが書かれています。

それなのに、何故宇宙人のことなどをいいはじめたかと申しますと、これは肉体人間の側からいいはじめたのではなく、宇宙人のほうから、私たちに縁を結んでこられ、種々と交流しはじめたからなのであります。

宇宙人のほうから何故縁を結んでこられたかと申しますと、私たちの世界平和の祈りの光の波が、宇宙人のもっている心の波と全く等しい律動(ひびき)であったから、自ずと一つに結ばれたのであります。

宇宙のすべての存在はひびきなのであります。それが光のひびきであるか、業想念波動、光の未開発のひびきであるかなのであります。

というように、宇宙人と白光の繋がりについて書かれています。またさらに、

地球人間と宇宙人(星の人類)とはどのように相違するのかと言いますと、宇宙人は神靈がそのまま物質化している存在であるので、物質宇宙人は即座に神靈に還元することができます。

しかし地球人間は、神靈がそのまま物質化しているのではなく、神靈の微妙な波動から、幽質(幽体)の波動にひびきを粗くし、その物質というもっと粗い波動になって、肉体人間となってきている、つまり四段階(くわしくいえばもっと多くの段階)になっているのです。

神体・靈体・幽体・肉体の四段階のことですね。

宇宙人が神靈の微妙な波動を幾分粗めただけで物質化(眞実は幽質化)できるので、すべての点において地球人類より、はるかに自由自在な存在なのであります。(中略)

宇宙人のこといろいろ言い始める人が世界全体で見れば、戦後ですかね、第二次世界大戦の後ぐらいから、日本では昭和30年代くらいからそういう人たちが出始めました。

これからは、自らを宇宙人だとか、宇宙人と会ってるとか、宇宙人の通信を受けているとかいう人々が、次々と現われてくるでしょうが、その真偽は、その人自身の人格の高さや、その団体の正しさ、清らかさによって判別しなければなりません。

やたらに宇宙人のことと口にしていても、その人の想念行為が低いものであったり、輝きのないものであったら、その人のいうことは虚偽であるか、背後の靈魂のいたずらかに違いありません。

それは靈能者の場合も同じであって、もし、こうした低い想念行為に感応して出現してくるような宇宙人であったら、そのような宇宙人と手を握っても、地球人類は救われようもありません。

私たちの求め、交流している宇宙人は、釈尊よりもイエスよりも秀れた靈位の宇宙人であるのですから、生半歩の立派さや、善良さでは、波長が合うわけがないのです。

と申すと、私たちが自分褒めしていると思われる方もあるでしょうが、私たちは、自己の想念行為を、すべて、世界平和の祈りの中に投げ出して、その世界平和の祈り(神のみ心)の中から改めて生まれてきているのであるので、自分褒めも他人褒めもない、こうした業想念とは関係のない世界から働いているのです。

いうことが書かれています。

最終的には、私たちがそういう宇宙人の人たちと一緒にになって働くようになるためには、この“消えてゆく姿で世界平和の祈り”をコツコツコツコツとやり込んで、自分の心の中に一切の把われもない空の心境、悟りの心境、神我一体となった心境になる必要がある、ということが書かれています。

次に宇宙子科学のお話をします。

昭和37年6月1日、昌美先生の21歳のお誕生日に、『宇宙子生命波動物理学五井先生研究所』というのが開設されて、金星の宇宙人の中の長老の一人であるエンジェラスカラーさんのご指導のもとに、宇宙神(宇宙創造神)のお姿を絵図面に書き表わすということが最初に行われました。

これは誰でもが出来たことではなく、五井先生と昌美先生が中心になって始められました。それによって、宇宙創造意識・宇宙神のお姿を、二次元の紙の上、絵図面の上に書き表すということが行われました。たぶん、今はもう、宇宙子科学絵図面(ご神体)自体は出来上がっているんだと思われます。

いつかの時点で昌美先生からも、「宇宙子科学はもう完成している。あとはこの地球にそれを展開する時期を見ているんだ」というお話をありました。

知識欲が旺盛な方は、五井先生が、もしくは昌美先生が白光誌やご著書やお話の中でお伝えくださった宇宙子科学のお話以上の内容に興味を持つ方もいらっしゃると思います。

率直に言います。私は「それは時間の無駄だ」と思っています。「宇宙子科学の知識をいくら付けたところで、それで立派になっていますか?」というお話です。自分が本当に立派になることに自分の時間を使う方が、私はよほど有効だと思っています。

もし、私たちに宇宙子科学の知識が必要なのであれば、昌美先生、もしくは由佳先生・真妃先生・里香先生のお口から、そのお話をくださると思います。もしくは文章で発表されると思います。

今は、そういう動きはありません。ないということは、今の私たちにその知識は必要ないということです。では、何が本当に私たちに必要なことなのか。

「根本的に自分を磨き高め上げる」というところに意識を向けて、自分の心を見つめておりますと、私たちがやるべきこと・必要なことというのは、もう全部出ていることがわかります。

ご著書に書いてあります。お話の中にも出ています。あとは、私たちがそれを本気でやり続けるか、やり続けないか、だけです。

やり続けた人は、今変わった姿でここにいらっしゃいます。「昔の自分と今の自分は全然違うよね」という気持ちを持っていらっしゃると思います。

本当に、やり続けることが大事だと思います。『消えてゆく姿で世界平和の祈り』、これを言葉にすると簡単です。20文字もないですよね。19文字です。

昭和30年に、五井先生が周りの方々にかつぎ上げられる形で『白光真宏会』ができました。それ以前の昭和20年代後半にあった『五井先生讃仰(さんこう)会』という有志の集まりが宗教法人の形になったわけです。そして、『宗教法人 白光真宏会』という名前がつきました。

初代の理事長である横関さん(当時のお世話役の方)が、千葉県のお役所に宗教法人の届け出をしに行ったところ、「お宅は教義はないんですか」って言われて、そそくさと五井先生のところへ戻って、「五井先生、教義というものが必要なんだそうです」と言わされたそうです。この話は、何かに書いてありましたよね。

ちょうどそれは夕食時だった。五井先生が夕食の手を止めて、「ちょっと待っててね」って言って、15分ぐらいで、サラサラサラっと書き上げたのが『人間と真実の生き方』だったのだそうです。

その昭和30年から神界へお帰りになる昭和55年8月17日まで、五井先生が首尾一貫してお話したり、書いたりして残してくださった教え、お話は、徹頭徹尾、“消えてゆく姿で世界平和の祈り”です。

これを、手を変え品を変え、話の方向性を変えて、お伝えくださいました。五井先生はユーモアをお持ちな肉体を持っていらしたから、冗談を交えて集まった人たちをときには笑わせながらも、この“消えてゆく姿で世界平和の祈り”的大切さを、ずっと25年間、昭和30年から昭和55年までお伝えくださいました。

今は天国に帰っている村田正雄さんや斎藤秀雄さんなど、当時長老と呼ばれた人たちも、この“消えてゆく姿で世界平和の祈り”的大切さということを、全国の集会を回って伝えて歩かれたと思います。私は村田先生には会ったんですけども、斎藤秀雄さんにはお会いすることはできませんでした。

村田さんのお話を聞いていて、ご著書を読んでいて、村田さんがどれだけ真剣に、“消えてゆく姿で世界平和の祈り”をやり込んでこられたかということが、私には痛いほど伝わってきました。

当時、村田さんのお話を聞いたことのある方は覚えていらっしゃると思いますけれども、例えば、そうですね……、人によって言い方は違ったそうですが、「一万回、世界平和の祈りをやりなさい」っていう言い方をされた

ことがありますよね。

「世界人類が平和でありますように」「世界人類が平和でありますように」「世界人類が平和でありますよう」と、一万回もやれば本当に変わることをおっしゃった。

私が一番印象に残って覚えているのは、統一をするときの姿勢のお話でした。正座をしますね。膝を曲げられない人は椅子に座ると思うんですけども、そのときにご指導くださったのは次の三点です。

「背筋を伸ばし、顎を軽く引き、肩の力を抜く」、この三つを言わされました。その後に統一のご指導がありました。

お寺で若いお坊さんが座禅修行しているときに、偉いお坊さんが警策を持って歩いて、姿勢が乱れたりしたらその棒でパチンって打たれるようなことをイメージして、私、恐怖しながら恐る恐る統一してたんですけども、統一をしてるうちに、姿勢が……、体が曲がってきたり、首が下がってきたり、いろいろするんですね。

そのときに、村田さんはやさしく、私の顎に手を当ててスーと直してくださいました。また、姿勢が悪くなったら背中に手を当てて、こうやって直してくださいました。

私はそうしたご指導を受けて、「なるほど、統一っていうのはこういうふうにやるんだな」っていうことを覚えました。まだ20代のときですね。

後々になって私の中で、「背筋を伸ばし、顎を軽く引き、肩の力を抜く」っていうことは、何も座って統一してるときだけじゃなくって、道を歩いてるときとか、椅子に座って何か書き物してるときとか、そういうときにも使えるじゃないかっていうことに気がつきました。

私にとってあの村田先生の「背筋を伸ばし、顎を軽く引き、肩の力を抜く」っていうお話は、生きる姿勢の話になってしまいます、私の心の中では……。

私たちは、日常生活の中でいろんなことをします。一日中寝てるわけでもなければ、一日中座ってるわけでもなければ、一日中立ってるわけでもない。立ったり寝たり座ったり、いろいろな形で動きながら生きてますけども、そのときに正しい姿勢でいるっていうことが、いつしか私の中では、『心の姿勢を正す』っていうふうに想いが変わってきました。

「肉体の形ももちろん大事なんだけれども、心の姿勢を正すことが大事なんだな」っていうふうに気づかせていただく様に、いつの間にかなってきました。

心の姿勢さえ正しければ、歪んでいなければ、私たちの心は間違ったことを、真理から外れたことを思わなくなってしまいます。もう思わなくなった方ばかりだと思うんです。

そこに至るいろいろな体験を皆さんお持ちだと思います。私、本当に「皆さんの体験をみんなの前で発表していただけたら、もっとお互いを高め合うことになるんじゃないかな」っていうのも思っております。

例えば電話で、この中のどなたかと電話で話すときに、一対一だったらちゃんとお話してくださるんですけど、「そのお話を皆さん前でしませんか？」って言ったら遠慮されるんです。本当に、体験談をお話するっていうのが、お互いにとって一番有益なことだと思っております。

もちろん、人間は性格も違うし、ものの考え方とか見方も違うし、必ずしも誰かの参考にならないかも知れなんですけど、でもいろんな人のお話を聞いていくうちに、「この方、私となんか近い感じがするな」って思ったら、真似をしたらいいと思うんですね。

どんな世界のどんなことでも、何かを覚えよう、成し遂げようとしたら、もの真似から入ります。もの真似から入って、唯一無二のオリジナリティーが表われてくるに至るんですね。

例えば絵を書くことでも、音楽を作ることでも、そうだと思うんですけれど、例えば作曲をするっていうときは、最初の頃に作った曲っていうのは、自分の好きな音楽家の影響を受けるんです。でもそのうちに、オリジナルなメロディーが出てくる。

きっと絵画なんかもそうだと思います。私は絵を描くのは苦手なんですけど、自分の好きな画家さんがいて、描き始めるとその画家さんのタッチが表われている。でも描き続けているうちに、自分のオリジナルの絵が出来あがってゆくと思います。

真理を求めて、それを自分のものにしてゆくという道も同じだと思います。いろいろな人がいろいろな教えを説きます。いろいろな体験談を話します。

それは、富士山という一つの独立峰、他に周りに山がない富士山という山を、西側から登ったり、東側から登ったり、北から登ったり、南から登ったり、南南東から登ったり、北東から登ったりということに例えられます。

みんな違う方向から登っているものですから、登っている途中では、お互いのことがわからないんですよね。お互いがお互いに登っている状態だったら、お互いのことがわからない（見えない）。

片方が頂上にたどり着いていたら、頂上から見下ろせば、「あの方は今そこにいるんだ」ってわかるんですけど、お互いが登っている途中だったら、お互いのことがわからない。

白光の中でも、他の人のことを影で誰かが何か言っているような話も聞きますよね。それは、お互いが違う道を歩んでいる、違う方角から富士山を登っている姿なんですね。

お互いが頂上にたどり着けば、同じ景色を共有できるようになります。

その同じ景色を共有できるようになるまでは、やはり私たちは、批判・非難・評価というのは、厳に慎む方向で生きるのが賢明だと考えております。

人の悪口を言う天才だった私がこうやって言うのもなんですけれども、今の私は、あまり人のことをどうこう思わなくなったんです。「あの方は今、そういうことが必要だからやっているんでしょうから、それでいいんじゃないでしょうか」という感じですね。

みんながご自分の直観に従って生きてゆく中で、考えの合わない方っていうのもいらっしゃるかも知れないですけれど、それは別な方角から富士山を登っているんだと思って、ご自分を磨き高め上げるというところに意識を集中してゆくのが、一番いいことなんだと思っております。

他人のことをいくら口出ししたところで、何も変わらないですからね。他人を変えたかったら、自分が変わるんです。これは私の体験談です。「他人を変えたい」と思っていたときは、他人は変わらなかったんです。

でも、自分が変わってみたら、相手に対する見方（視座）が変わって、人間関係で苦しまなくなったりしたんですね。だから、私の座右の銘は、「自分が変われば世界が変わる」なんです。

どなたか他の方がおっしゃった言葉なのか、私の中から出てきた言葉なのか、定かじゃありませんが、いつの間にか、「自分が変われば世界が変わる」っていうのが座右の銘になっておりました。

「2025年、日本が世界から認められる。平和の中心の国として尊敬されるようになる」というお話がありますけれど、それは一体どういう形で進んでゆくのか。いろいろな世界線、いろいろな未来の選択肢が今あると思う

んですけども、それがどういう形で展開されるかは、今この瞬間を生きている私たち一人一人の、一瞬一瞬の意識の用い方次第だと思います。

「本当になるのかな？」なんて考えの人ばかりだったら、なかなかその方向に進まないと思いますけれど、「いやいや、もう私たち1年、5年、10年、20年、30年、40年、50年、60年、70年、こんなにも世界の平和だけを祈り続けてきたんだから、そうなって当然でしょうよ」っていう気持ちの人ばかりだったら、世界中の人々の心を根底から揺さぶって、本当に「日本を中心に世界を建て直そうよ」という方向性が出てくると思います。

今はアメリカとか、ロシアとか、中国とか、もっと言えば、軍事力の強い国、お金をたくさん持っている国、大きな国が、世界の中心になっているように見えておりますけれども、地球自身は、今この瞬間にも、靈化していく状態の最中にあります。

どんどんどんどん靈的な波動圏に入っています。私たちが自分の体だと思っているこの肉体、自分の手だと思っているこの手は、知らないうちに靈体の体、手になっているときが来ます。

この手は、今は幽体と肉体が重なり合ったような手です。これが完全に幽体の手になったら、今度は幽体と靈体が重なってきます。で、やがて靈体の波動の方が多くなってくるということに変わってきます。

そうなってきますと、軍事力も経済力も人脈も権力も何の役にも立たない時代が来ます。

何が役に立つか。人格だけです。もっとその奥の靈位・靈格・神格、通用するのは、魂の実力だけになります。

よく私、例え話で、「そのうち、みんなのおでこに、“神”とか“業”とか、おでこの真ん中に現われた状態で生きる時代になるよ」って言うんですけど、その人の意識レベルがお互いに、誰の目から見てもわかるときがきます。

実際には、おでこに文字は現われないと思います。それは例え話です。でも、お互いがお互いに会って、相手の靈格がわかる、その人の考えていることが筒抜けでわかる時代になります。靈的な波動圏に入つてゆくと、否応なくそうなるのです。

実際にあの世ではそうなっています。靈界でも神界でもそうですけど、そういう世界なのです。お互いのことがわかる。

もう少しです。あと何年かはわかりません。もう少し経てば、そういう世界に変わるわけですから、今のうちに心を磨いて、埃があったら掃除して、心を綺麗に調えておけば、そのときになって恥ずかしい想いをしなくとも済みます。

もう堂々と生きていられる。そういう世界になっても、動搖しないで普通に生きていられる。「表からでも裏からでも断面でも、何でも見てください」って言える私たちになると思います。

世界も本当に大きく変わってゆきます。男たちが力を持つ時代が終わりになります。私は、新しい時代は、女性が中心の社会だと思っております。男たちはそれをサポートするという、そういう世の中に変わると信じています。

「男たちが変わればいいじゃないの」って思うかもしれませんけど、男たちに変わることを期待しても難しいと思います。

女性の力、女性性の力があって、初めて男たちが変わります。今よりはマシな男性たちが現われてきます。

そういう意味では、一番最初に申し上げました“女性性の表の面”、“陰陽の陽の面”がもっともっと旺盛に現われてゆくことで、そういう世の中に変わってゆくんだと思っております。

これは『裏の Zoom 祈りの会』ですけど、『表の Zoom 祈りの会』でも、女性の方々がもっと活躍する場所になつたらいいなと思っています。

男性も一部いるんですけど、男性は女性の方々をサポートし、お支えするっていう形で、女性が輝ける場になつたらいいなと思っています。

「自分が・自分の・自分で・自分に・自分、自分、自分……」というものが男性の心からなくなつてゆきますと、そういうふうに支えるという働きに、男性たちが喜びを感じるようになります。

それは元々、女性の方々が持っている力なんです。男性がそこに追いつくように努力をする。それで本当に男性たちの中に、その女性性の陽の面が現われ始めたら、いろいろとギスギスした世の中ですけれども、両性がお互いに支え合う、助け合うっていうことの大切さがクローズアップされてきて、テレビの番組なんかも内容が変わってくると思います。

「明るいニュースばかりだつたらいいのにね」なんて、うちでもテレビを見ながらよく話しているんですけども、そういう明るいニュースばかりのテレビ局もそのうちに出てくるんじゃないかなと思っております。

はい。2時32分ですね。今日はここまでにして、神聖復活の印を三回連続で組んで終わりにしたいと思います。

お祈りの言葉は、「人類の神聖復活、大成就」を日本語で二回繰り返します。

<神聖復活の印を三回連続>

はい、ありがとうございました。それでは、2月1日の勉強会は、これで終わりにしたいと思います。ご参加ください、有り難うございました。皆様のマイクをオンにします。

以上